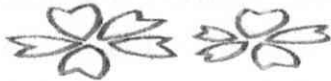


# 真土地区社協だより

平成22年3月15日 第5号



発行 真土地区社会福祉協議会広報部

## ☆ 一年を振り返って

会長 伊藤 延雄

社会福祉協議会に係る仕事として、子育て支援から高齢者まで幅広くあらゆるひとたち、そして団体、すべての地域の住民が対象となっておりますことをご承知のことと思います。

一年を振り返って思うことは、各種団体の皆様方が自分の所属する団体はもとより、恒に団体間の連帯を維持し住みよい地域を構築しようと努められることに、まず敬意を表したいと思います。真土教育力ネット・大野中学校区教育力ネットが典型的な姿ではないでしょうか。

さて、今年度、社協として主な行事の一つ「敬老の集い」について、ふれあい事業部吉野部長をリーダーとして企画いたしましたところ、予想を超える大勢の方々が参加され盛大に出来ましたことに心から厚くお礼申し上げます。もう一つ社協の主な行事「社会を明るくする運動」の一環として実施しました、講演会「子孫が語るジョン万次郎」は、青少年事業部吉川部長をリーダーとして企画いたしましたところ、教育関係者を始め他の地域からも参加者があり関心の深さを感じます。

未来を担う青少年や若者たちが「夢と志を持って生きられる社会」を構築するのは我々大人の使命でないかと思う。機会があれば再度講演をお願いしたいと思っております。

今年度は新型インフルエンザの影響で子ども大会が年末になりましたので、昔の正月遊びをテーマに、コマ回し・カルタ取り・タコ揚げなど高齢者の私には懐かしく、子供のころを思い出させて頂き楽しい一時を過ごさせて頂きました。関係者の皆様ご苦勞様でした。一年を振り返って思うことは、社協として十分な活動が出来ていない事を反省しております。具体的には、少人数による「ふれあいサロン」を通して地域の方々との交流が少なく、次年度は形にとらわれず趣味や学習を交えながら楽しい一時が過ごせる『場』を作ることを、他団体の協力を得ながら実現したいと思います。

## ☆ 第6回敬老の集い

ふれあい事業部 吉野 勝博

真土連合自治会の自治会長さんを筆頭に、各種団体の絶大なる支援のもとに、第6回「敬老の集い」を9月21日に真土小学校体育館で開催できました。「心のふれあいコンサート」の副題で、真土小学校4年2組の有志による息のあった素晴らしい合唱・合奏。ボランティア参加として、新進気鋭のテノール歌手として活躍中の「志摩大喜氏」

### 心のふれあいコンサート



と、ピアノ担当の「山岡喜世子氏」の生演奏で名曲6曲の歌い込み、観衆の心を和ませて頂きました。

同じボランティア参加で、3年前まで現役でテレビ・舞台に活躍された誰もが知る「菅原都々子氏」をお招きして、懐かしい歌8曲を、語りを入れながら熱唱され、82歳とは感じられない迫力と体力に感心しました。観衆の中からは、感動してか涙を流しながら手拍子を打ちはじめ、それが徐々に輪を広げて大合唱になった事は、主催者としても胸を締め付けられるような激しい感動を覚えました。

今回の招待者は、「健康長寿真土」と会場の都合上、前期高齢者の一部と高貴（後期）高齢者を含め70歳以上の方を対象としましたが、結果的には会場に少し余裕が有りましたので、65歳以上の方に楽しんで頂きたかったと反省しております。

## ☆ 第59回「社会を明るくする運動」 青少年事業部 吉川 栄治

平成21年11月7日大野公民館にて100名の参加で「子孫が語るジョン万次郎」をテーマに中濱武彦氏をお迎えし、前段ではビデオによる紹介、その後曾祖父ジョン万次郎の志と生涯について熱く語って頂きました。

時は幕末。天候の急変により土佐から流され、アメリカの捕鯨船に助けられた少年万次郎。日本を離れ、民主主義の勃興する当時のアメリカで教育を受けた彼は、命を懸けて鎖国体制にあった祖国への帰還を志す。

日本国という概念のいまだ確立してない幕藩体制において、初めて「日本人」として、さらに唯一グローバルスタンダードを体得した者として幕末維新を生き、母国のため己のすべてを尽くした男の真実は、現代に生きる我々の心強い道標となる。

子孫ならではの裏話を含め楽しい講演でした。



## 真土社協の支援団体

社協が支援している団体を紹介します。

### ※ 真土ボランティア

1. 真土大塚山公園まつり「模擬店」
2. 市民体育レクリエーション真土地区大会
3. 公民館ふれあいまつり
4. ひとり暮らし高齢者訪問・・・2～3名1組で年8回
5. ボランティア定例会・・・毎月 第三水曜日

初めて地域の活動に係わり、こんなに多くの組織団体が有る事に驚きました。「地区ボランティア」として、3年、5年とされている方もおられ、私も地域のお役に、小さな活動でも一役担っていきたいと思います。

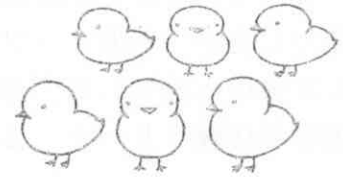
代表 尾形 逸子



## ※ 真土子育て支援「ぴよぴよ」

代表 増子 仁子

- 「笑顔でお母さんと子供たちを迎え、笑顔で送ろう」
  - 「低い姿勢で接することを心がけよう」
  - 「一人でいる人がいたら、そっと他のお母さんにつなげよう」
  - 「“見守り”を基本にしよう」
  - 「ホッと出来る雰囲気をつくりみんなで作ろう」
  - 「駐車場など安全の心配りを忘れないようにしよう」
- 私たち「ぴよぴよ」スタッフの心がまえです。



就学前の親子とマタニティーママを対象に、地域みんなで子育てを。子育てのベテランおばあちゃんから現役ママのスタッフが、アットホームな雰囲気で楽しい時間を過ごしています。子育て中の方や子育てを応援して下さる方が気軽に立ち寄れる場所を目指しています。



## ※ 真土連合真寿会

連合会長 森下 斉

### 「真土連合真寿会がかかえる問題」

真寿会の上部団体、平塚市老人クラブは平成10年はクラブ数170、会員が約10,200人だったのが平成21年はクラブ数が130となり、会員も約7,800人となりました。その理由は会員の高齢化と会員の入会が少ない事、又、役員を引き受ける人が中々いないと言う事です。

真寿会も会員185人のうち50%以上が80歳以上で超高齢化の会となりました。会員の減少を食い止め、若い方の入会を勧めるために昨年初めて「会員増強部会」をつくり「真寿会入会のご案内」パンフレットを作成し各種団体の代表の方にお渡ししてご理解を得よう努めてきました。

又、今までは各種団体との交流が少なく感じましたので積極的に図る事を心がけました。当会は今まで援助して頂く事が多かったので、何か地域に恩返しをしようと「ボランティア部会」や「女性部会」を作って、20名のメンバーで昨年9月より「子ども安全パトロール」を立ち上げ、現在「腕章」をして児童の下校時や下校後の安全を見守っています。3月には更に公募して会員数を増やす予定です。ボランティア活動としてコーラス同好会が老人施設などを慰問し、歌を通して交流を図り皆さんに喜んでいただいております。

今後の課題は、会員を増やし男性会員の入会をお願いしたく各種団体、特に社会福祉協議会のご協力をお願いいたします。



## ※ 真土地区青少年指導員連絡協議会 会長 今井 玄児

第41回真土地区子ども大会を快晴の平成21年12月27日(日)13時から117人の児童が参加し、真土小学校校庭で実施することが出来ました。当初は11月28日(土)の開催予定でしたが、新型インフルエンザの影響で学級閉鎖や学年閉鎖も発生してしまい、延期とした後の大会でした。当初計画していた野外炊事から「お正月遊び再発見」と題して正月遊びの体験ラリーと、お正月おもちゃ作りを実施しました。タコあげ・コマ回し・羽根つき・カルタ・お手玉・竹とんぼ・けん玉・ヨーヨー・ジャンボ福笑い・ジャンボだるま落しと、短期間の再企画でしたが事故も無く、例年以上に世代を超えて密度の高いふれあいが出来た子ども大会となりました。



最後に関係各種団体の皆様の御協力に対し感謝申し上げます。

最後に関係各種団体の皆様の御協力に対し感謝申し上げます。

## ※ 真土教育力ネット 会長 田中 稔

真土教育力ネットは、真土小学校区の主要な20の団体と教育機関より選ばれた方、44名が役員顧問として参加しています。この多くの団体が参加しているという特徴を活用し、横の繋がりと広がりを生かし青少年(児童・生徒)育成の支援と応援を進めるのが活動の基本です。

会長は毎年、青少年指導員連絡協議会が真土地域の方を推薦して決定していますが、あくまで職ではありません。各役員は各団体内で選出され、団体内の役職にはとらわれません。

主な事業を紹介します。

1. 通年を通しての子ども見守りパトロールを平成17年11月より開始し5年目に入っています。目的は主に児童の下校時に交通事故、また犯罪に遭わない様に、安全に安心して下校が出来る様に見守ることです。そして犯罪の抑止活動にも繋がります。現在160名近い地域の方が参加しています。
2. 愛のパトロールは真土地区を2コースに分け夏休み期間中の、月・水・金曜日の20時30分から1時間程度パトロールをしています。協力者として中学生保護者家庭のすべてに参加を呼びかけています。この活動の第一の目的は、子どもが「自分達は地域で見守られている事、また地域住民の目が常にある事を自覚させる」のが第一の目的です。
3. 夏休み最後の思い出として、江ノ島から大野中学校までのナイトハイク。8月22日(土)の22時に大野中学校体育館に集合。約20数キロを歩きます。バスで江ノ島に向かい、今年は鶴沼をスタート地点として0時にハイクを開始し生徒・児童87人は全員完歩できました。

## ※ 真土地区民生委員・児童委員協議会 会長 安藝 洋子

### 「日々の活動から見えてくるもの」

民生委員制度創設90周年記念大会に採択されたスローガンの内、「広げよう地域に根ざした思いやり」「孤立、孤独を無くす運動」「児童虐待や犯罪被害等から子供を守る取り組み」を重点目標としています。

特に今の世相を反映する高齢化による「独り暮らし」の増加。そこから来る孤独死等は役務の中で立ち会う場があります。何故、独り暮らしかは問いませんが、生活の場で最悪の事が起きない様見守りを中心に尽力しています。

又、子どもをとりまく課題としては、核家族からくる子育ての悩み等を、子育て支援グループの皆さんと力を合わせて「びよびよ」の活動を通して地道に行っております。その悩み解消に大きな力を発揮しているものと実感しています。更に、子どもに関しては、世の不景気を背景に働く母親も増え、寂しさからか「万引き」が多発。私達は本人に事の重大さを厳しくも優しく諭す役目も担っているところです。

常に、地域住民の立場に立ち、様々な相談に対応し、必要に応じて関係機関につなげる役割を果たしながら、これからも役員一同力を合わせて、課せられた問題に取り組むべく精進してまいります。



## ※ 真土地区子ども会育成連絡協議会 会長 高橋 かづ子

真土育成会は、真土地区10単子ある子ども会役員に属する会長と副会長の総勢20名で結成されており、地域、各種団体と連携し、子供達が様々な実体験や経験を通して、健やかに育つ様願いを込めて皆で力を合わせ活動を行っております。

育成会が開催しているイベントの一つであるお楽しみ会では、真土小学校体育館にて子ども会の皆でお弁当を食べ、今年度はマジシャンズムツアイによるマジックショーを行いました。子供達にそれぞれマジックのトランプを配ると真剣にマジックをしてみせる子供達の姿がとても印象に残っています。

又、子供達が地域と係わりを持ちながら、異年齢の友達や育成者である大人とのコミュニケーション能力を高め心身ともに成長を促す事を目的とし、年間を通して渋田川桜まつり・真土神社例大祭・大塚山公園まつり・盆踊り大会・スポーツ中央大会等様々なイベントに参加しています。



## ☆ 「大野地区平和を感謝する集い」

大野地区殉国碑奉賛会 副会長 新倉 善吉

日本の軍隊は明治37・8年の日露戦争でロシアに勝利し以降軍国主義に移行し、昭和6年満州事変、昭和12年支那事変となり、昭和16年12月大東亜戦争に突入し中国大陸、東南アジアに戦域を拡大し遂に收拾がつかない状態であった。

アメリカ大国とは物資と科学力で歴然たる大差を軍部は知らなかった。日本軍は大和魂が有るとの事で特攻を繰り返し、玉砕した島々等で多くの人命が消耗品扱いとされた。

昭和20年春になると、日本各地で米軍機による空襲で家屋は焼失し多くの犠牲者を出し其の数は内外地で3百万人を越えたと言われている。そして昭和20年8月15日に敗戦を迎えました。

真土地区でも戦死者35名、焼失家屋37棟、焼死者7名と聞いている。国のために犠牲になられた英霊を祀る慰霊碑については、明治33年に真土神社境内の中央部に建立されました。敗戦による占領政策により撤去され、昭和26年講和条約締結後復旧され現在に至っています。大野地区では昭和31年に松が丘公民館前に大野殉国碑を建立し、4百余柱と戦災犠牲者25名を合祀し慰霊祭を続けて参りました。

戦後50年を節目として「大野地区平和を感謝する集い」として発足し、慰霊の行事と併せて再び愚かな戦争が起きない様、後世に平和の有難さを伝承していくことが我々の使命だと思ひ行事を継続していく所存です。



## ☆各種募金 ご協力ありがとうございました。

### 平成21年度各種募金結果報告

各種募金運動は、幸せをわかちあう温かい心を人々が通わせあい、その優しさを大切に、社会福祉を向上させていくことを目標として展開しています。地域の皆様、各自治会長様、組長様、募金活動にご協力ありがとうございました。心から御礼申し上げます。

「皆様方よりの温かい募金は下記のように使われています。」

- 日赤社員増強運動募金 [638, 289円]  
災害救護事業・血液事業・医療事業など地域に根ざしたさまざまな事業に使われています。
- 賛助会員会費 [619, 350円]  
児童に対する活動・高齢者に対する活動・地域社会に対する活動等、主に地域福祉に関する活動に使われています。募金の75%が地区社協に還元されます。
- 赤い羽根募金 [651, 260円]  
地区社会福祉協議会・子育て支援グループへの助成・ボランティア講座開催・福祉フェスティバル開催・福祉施設の機器・福祉車両の購入等に使われています。
- 年末たすけあい募金 [613, 510円]  
生活基盤が弱く、何らかの生活支援を必要とする方々に配分されます。

